

年報第5号刊行にあたって

心理科学研究センター研究代表者
人間科学部心理学科教授

長田 洋和

平成23年度に文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として選定されたプロジェクト『融合的心理科学の創成：心の連続性を探る』も、平成27年度で最終年度を迎えました。

今年度は、10月24日に専修大学神田校舎にて「融合的心理科学の創成：心の連続性を探る」と題して集大成のシンポジウムを開催しました。本センターからは5名の研究員が、プロジェクトにおけるこれまでの研究成果について口頭発表を行ったほか、ポスト・ドクターおよびリサーチ・アシスタントも、各研究員の指導のもとに進めてきた研究成果をポスター形式で発表しました。また、昨年度のシンポジウムでも講演していただいたオスロ大学のBruno Laeng 教授をお招きし、本プロジェクトの目的に関連した興味深い講演を行っていただきました。さらに、本センター客員研究員でもある東京大学大学院の長谷川寿一教授をお迎えし、「融合的心理科学の創成は成し得たか?」と題したパネルディスカッションを行いました。このセッションでは、本プロジェクトの5年間の研究を振り返りつつ、バイズ理論を軸にした今後のさらなる発展についての活発なディスカッションが行われました。シンポジウムには研究者のみならず、本プロジェクトに興味を持っていた研究者以外の方々にも多くご参加いただき、広く研究成果の発信と社会還元ができたと考えています。

さらに特筆すべき点として今年度、リサーチ・アシスタントであった石川健太が、大久保研究員指導のもと博士（心理学）の学位を取得しました。若手研究者の育成という本プロジェクトの目的のひとつについて、成果が現れたものと自負しています。

これらのほかにも、過年度同様、研究成果が国際的な欧文学術論文誌や国内の伝統ある査読付き論文誌に採択されたことに加え、国内外の学会でも積極的に発表を行ってきました。各研究員の積極的な研究活動により、5年間、プロジェクトとして研究成果の発信を続けることができたと考えております。

この5年間で、融合的心理科学はバイズ理論を軸にして一定の成果を示し得たのではないかと思います。本プロジェクトは今年度で一旦終了となりますが、さらなる発展も期待できます。そういった意味では、新たな心理学の扉を開けることができたのではないかと思います。

最後になりますが、本プロジェクトを支えてくださった社会知性開発研究センターの職員の皆様、特に奥宮さん・川島さん・渡辺さん・永金さんに深く感謝を申し上げます。

Alea jacta est! (The die is cast!)